

14 染付彩色狛犬 肥前・有田窯 一点

江戸時代(十七〜十八世紀) 陶磁 三九・〇×二八・〇×四七・五



神社等で親しく見ることでできる狛犬は、もともと獅子・狛犬と呼ばれ区別されていた(55、56頁のコラム参照)。石造のものや木製、金属製などが通常知られるが、これは色鮮やかなやきものの狛犬である。やきものの狛犬は瀬戸地方では中世より陶製のものが数多く作られていたが、磁器の狛犬は九州肥前の有田窯が初めてである。肥前製の大型の狛犬は、紀年銘によつて江戸時代元禄年間(十七世紀後半)の作例が数件知られるのみで、阿吽一對で現存するものとなると佐賀県立九州陶磁文化館所蔵の一例だけである。

本作は吽像のみ伝来しており、寸法や形状はこれまでに紹介された肥前製の狛犬とほぼ共通するものの、一部を染付にして、残りは焼成による上絵付けではない彩色方法が他とは異なり、類例のないものである。巻毛の突端部だけ釉薬をほどこしているのも特徴である。体部は緑を基調に全体に発色の良い群青色の染付と金彩の斑文様とした上、たてがみや尾と腹部を朱色とする色鮮やかな配色が特徴である。詳細なことは明らかではないが、明治二十四年(一八九一)の御買上品として伝えられる。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections